

～総括報告～



川崎市議会議員海外視察の年次推移を見ると昭和 58 年度に制度化され今日に至っております。これまでの海外視察は、平成元年に昭和天皇が崩御され実施を中止したことや、平成 13 年のアメリカ同時多発テロ事件のため実施を延期したことなどありますが、ヨーロッパ、北米、オセアニア、アジアを中心に実施しております。今期はアジア視察団 11 名（10 月 20 日から 28 日まで）、オセアニア視察団 11 名（11 月 2 日から 9 日まで）、ヨーロッパ視察団 10 名（11 月 3 日から 10 日まで）、の 3 班編成で実施いたしました。

ヨーロッパ視察団は、視察に先立ち 7 回の打ち合わせ会と 2 回の勉強会を実施いたしました。打ち合わせ会では主に旅行会社から提出いただいた企画案の選定、在外公館などへの訪問について、視察時の役割分担、海外視察報告書などについて協議が行われました。その中でも協議に時間を要したのは企画案の選定と視察行程、視察内容などについての項目でありましたが、旅行会社及び現地との調整を重ね、団員の要望を満たす視察行程、主要視察テーマ及び項目を決定することができました。また 2 回の勉強会につきましても【はじめに】に書かせていただきましたように、外務省欧州局西欧課の杉浦雅俊課長並びにト部響世主査、帝京大学の内貴滋教授には視察に際して極めて有意義なご講義を賜りましたことに重ねて感謝申し上げます。

ヨーロッパ視察団は 11 月 3 日午前 9 時 50 分に羽田空港を発ち、ロンドン経由で目的地のコペンハーゲンに到着したのは現地時間 11 月 3 日の深夜 12 時半過ぎで、初日は移動の 1 日となりました。

11 月 4 日、コペンハーゲンでの調査項目は、「社会福祉、社会保障」「ICT 施策」であり、日本と北欧諸国のビジネスや文化等の研究調査、人的交流を支援する組織である北欧研究所を視察いたしました。高福祉高負担の国

として、デンマークは世界幸福度ランキング上位常連の世界有数の福祉国家であり、DX、GX の活用により常に安定した社会保障に支えられ、医療、教育、金融をはじめ公的・民間部門ともに社会の隅々まで高度にデジタル化されているとの説明を受けました。しかし、これにとどまることなく更にデジタル化を推進するとのことで、この状況がすでに世界標準となっていることを改めて認識させられ、社会変容が加速する中、我が国の現状（我が国のキャッシュレス決済率は令和2年末に約30パーセント、令和7年6月までに40パーセントを目指す）と比較せずにはいられませんでした。

11月5日、午前中にコペンハーゲンからロンドンに移動し、午後、Dementia UKにて社会福祉施策、クレアロンドン事務所にて大都市制度、議会運営について調査いたしました。特に大都市制度に関しては事前の勉強会での取組をふまえ、本市がめざす「特別市」の法制化に向けて、国をはじめ各関係団体への働きかけや、指定都市間の連携の必要性を再確認いたしました。翌6日にはロンドン市役所の視察が可能となり、委員会の審議を傍聴することができました。視察した委員会では川崎市議会の視察団を紹介いただく場面がありその配慮に恐縮した次第でありました。

11月7日は友好都市の表敬訪問、ヤングケアラー支援の調査のためロンドンから列車で約2時間のシェフィールド市へ向かいました。シェフィールド市は平成2年7月30日に本市と友好都市の提携をし、これまでも視察団が訪問しております。昨年の本市の市制100周年に際して、シェフィールド市のジェイン・ダン名誉市長から祝賀のメッセージをいただいておりますので、福田市長からのお礼の「親書」を携えシェフィールド市庁舎にて市長、議長への表敬訪問をさせていただきました。その後、シェフィールドこども大学、ヤングケアラー支援について視察を行い、行政とともに市民団体の支援組織が取り組む多様な支援体制は非常に参考となりました。その後 All Saints' Catholic High School を訪問し音楽教育、特に楽器演奏の特別指導について見学の機会をいただきました。この日ロンドンに戻ったのは午後10時となりました。

11月8日、この日は午前中、在英国日本国大使館の訪問が実現し、日本にとっての英国の必要性、政治経済、外交安全保障、二国間関係などにつ

いてご教授いただきました。午後には、クインティン株式会社を訪問し「球技専用スタジアムを中心としたまちづくり」について座学研修の後、現地の視察をさせていただきました。本市では、今後見込まれる人口減少、少子高齢化の進展に起因する様々な課題を解決していかなければならない中、老朽化にともなうインフラの整備にも取り組まなければなりません。スクラップ・アンド・ビルドの成功例として、「球場専用スタジアムを中心としたまちづくり」は、医療、介護、子育てなどの充実したサービス提供に加え、地域主体のまちづくりを進める事例として本市においても参考となる取組でありました。

視察最終日の11月9日、この日は午前中にブリックレーン等の若者文化に関しての視察を行いました。この地域でまず目を見張ったのは単なるいたずら書きではない、いたるところに描かれた芸術性に満ちた、個性的なアートでありました。さらにはレストラン、マーケットなど流行の発信地として世界中の若者たちから注目を集めているブリックレーンの環境を目の当たりにし、「ビートルズ」が世界の音楽史に激震を与えたことを連想するとともに、本市が若者文化として取り組んでいるブレイキン、BMX、スケートボードとどのように関連付けることが可能か、大きな課題をいただきました。視察を終え空港へ向かい午後6時30分ロンドンを発ち約13時間50分のフライトを経て11月10日午後7時20分に羽田空港着となりました。

以上、今回の海外視察の概略について報告させていただきましたが視察報告の詳細につきましては各団員が担当した項目についてそれぞれが「視察報告書」として取りまとめておりますのでご高覧いただければ幸いです。

結びに、大正13年人口約5万人からスタートした川崎市は、令和6年に市制100周年を迎え、人口が155万人を超え、今後しばらくは人口増加が続きますが、令和12年頃の160万人をピークに人口減少へと転じます。また、生産年齢人口は令和7年頃の105万人がピークと想定されており、急速に進む少子・高齢化社会を見据えて、特に社会保障分野の対策は取り組むべき喫緊の課題であります。また、公共施設の老朽化対策も危機感をも

って総合的・計画的に取り組む必要があります。これらの課題に鑑みて、この度、社会福祉・社会保障、ICT 施策、ヤングケアラー支援、地方自治制度、まちづくり施策についての視察を実施したことは今後、持続可能な新たな 100 年のスタートにあたり、将来を見据えた非常に充実したものになったと感じております。引き続き市民のみなさまが安心して暮らすことができ、幸せを実感できるまち「かわさき」を目指し、努力精進してまいりますので市民の皆様のご指導、ご示唆を賜りますようお願い申し上げ総括とさせていただきます。

川崎市議会ヨーロッパ海外視察団 団長 松原 成文